



幹線リスト		敷設区間	配線種別・サイズ	保護管			
系統番号	敷設記号			接地	隠蔽	屋内露出	屋外露出
L-1	L-1	QB → P-BOX → LP-1	EM-CET60 ^φ → 既設1V60 ^φ ×3 (51)			EP75	WD FEP80
L-2	L-2	QB → P-BOX → 外灯用分電盤	EM-CET22 ^φ → 既設1V22 ^φ ×3 ±E5.5 ^φ (31)			EP51	WD FEP50
L-3	L-3	QB → P-BOX → LP-1盤	EM-CET14 ^φ → 既設1V14 ^φ ×3 ±E14 ^φ (31)			EP51	WD FEP50
P-1	P-1	QB → P-BOX → LP-1盤	EM-CET100 ^φ → 既設1V100 ^φ ×3 (63)			GP82	WD FEP80
P-2	P-2	QB → P-BOX → LP-2盤 (LP-1)	EM-CET60 ^φ → 既設1V60 ^φ ×3 (51)			EP75	WD FEP80
P-3	P-3	QB → P-BOX → 屋外開閉器	EM-CET22 ^φ	8 ^φ ×2		EP51	WD FEP50
地1	P-4	QB → 地熱盤	EM-CET100 ^φ			GP82	WD FEP80
地2	P-5	QB → 地熱盤	EM-CET100 ^φ			GP82	WD FEP80
地3	P-6	QB → 地熱盤	EM-CET200 ^φ	38 ^φ ×2		GP104	WD FEP100
地4	P-7	QB → 地熱盤	EM-CET100 ^φ			GP82	WD FEP80
	ハ	QB → デマンド 監視装置	EM-CEES2 ^φ -3C			EP31	WD FEP30
	空	QB → P-BOX	空配管				FEP80

- 注 記
1. 地中埋設 (FEP) 管よりの露出配管立上部分は異種管路接続材を使用し、接続厚鋼電線管は溶融亜鉛メッキ (ZGP) 管とする。
 2. 厚鋼電線管の地際部分及び異種管路接続部は防蝕テープ巻処理を行う。
(地中埋設部及び立上げ部分はGL+300mm以上、異種管路部分は600mm以上)
 3. ケーブル埋設部分には埋設シートシングルW=150を設置する。
 4. 地中配管の施工に当り山砂等を併用し配管保護を行うこと。
 5. 図中緑線表示は既設設備、太線表示は撤去・新設設備を示す。

凡例・注記		
記 号	名 称	備 考
■	地 中 線 埋 設 標	コンクリート製
■	地 中 線 埋 設 標	鉄製 (ビ)
SS	SSハンドホール	既製 (900 x 900 x 1200-R8K-60)
H-2-9	ハンドホール	既製 (900 x 900 x 900-R8K-60)
※ハンドホール内にケーブル支持用樹脂製パイプ架台を設ける。		
GL-900	地中埋設配管の埋設深さ GL-900以上 図中指示なき配管はGL-600以上とする。	

- 1 AP-1 エアーポンプ 2.2KW
CV3.5^φ-4C (1C:E) (25)
ケーブル残置、配管残置

2 AP-2 エアーポンプ 5.5KW
CV5.5^φ-4C (1C:E) (31)
ケーブル残置、配管残置

3 P-1 循環ポンプ 3.7KW
CV3.5^φ-4C (1C:E) (25)
ケーブル残置、配管残置

4 P-2 循環ポンプ 2.2KW
CV3.5^φ-4C (1C:E) (25)
ケーブル残置、配管残置

5 B ボイラー 1.25KW
CV3.5^φ-4C (1C:E) (25)
ケーブル残置、配管残置

6 BP-1 ボイラー用循環ポンプ 1.5KW
CV3.5^φ-4C (1C:E) (31)
配管、配線残置
- 7 DP-2 (NO.3) プロアー
100V440V
CV2^φ-3C (1C:E) (25)
ケーブル残置、配管残置

8 MV-1 電動3方弁
1V2^φ×4 (25)
配管、配線残置

9 MV-2 電動3方弁
1V2^φ×4 (25)
配管、配線残置

10 TE-1 浸水型サーモ
1V2^φ×3 (19)
配管、配線残置

11 TE-2 浸水型サーモ
1V2^φ×3 (19)
配管、配線残置

12 感震器
1V2^φ×2 (19)
配管残置、配管残置

機 械 は つ り 補 修 リ ス ト				
記 号	区 分	口 径	コンクリート厚	数 量
ア	壁	50φ	180mm	3
イ	擁壁	75φ	300mm	1
ウ	擁壁	100φ	300mm	3
エ	擁壁	125φ	300mm	8
オ	擁壁	150φ	300mm	1

注記
※コア抜きは簡易鉄筋探索後に行うこと。